

審議会等の議事の要旨（要点）

（基本情報）

会議名称	立川市環境審議会
開催日時	平成 29 年 11 月 27 日（月曜日）10 時 30 分～12 時 00 分
開催場所	立川市役所本庁舎 2 階 208・209 会議室
次第	1. 環境施策の進捗状況について（たちかわし環境ブック） 2. その他
配布資料	（事前配布）資料たちかわし環境ブック 2017（案） 1 冊 （当日配布） 資料 1 たちかわし環境ブック 2017 発行スケジュール 資料 2 第 10 期 立川市環境審議会 委員名簿
出席者	[委員] 会長 原剛、副会長 伊藤麻紀子、森田寛臣、加藤禮子、関口貴、齋藤孚彦、村田佳壽子、中島孝昌、宗野喜志、田中良明（敬称略） [事務局] 大野茂（環境下水道部長）、五十嵐智樹（環境対策課長）、八谷俊太郎（環境推進係長）、柚木正史（環境指導係長）、神宮聖治（温暖化対策係長）、長嶺毅（環境推進係）
公開及び非公開	公開
傍聴者数	0 人
会議結果	1. 環境施策の進捗状況について（たちかわし環境ブック） ・生物多様性をテーマとした特集ページについて、生物多様性の説明や意見が出された。 ・たちかわし環境ブックの配布方法、活用方法について、意見が出された。
担当	環境下水道部環境対策課環境推進係 電話 042-528-4341

第10期第3回立川市環境審議会 会議録

開催日時 平成29年11月27日（月曜日）10時30分～12時

開催場所 立川市役所本庁舎208・209会議室

出席者〔委員〕会長 原剛、副会長 伊藤麻紀子、森田寛臣、加藤禮子、関口貴、齋藤孚彦、村田佳壽子、中島孝昌、宗野喜志、田中良明（敬称略）
〔事務局〕大野茂（環境下水道部長）、五十嵐智樹（環境対策課長）、八谷俊太郎（環境推進係長）、柚木正史（環境指導係長）、神宮聖治（温暖化対策係長）、長嶺毅（環境推進係）

1 環境施策の進捗状況について（たちかわし環境ブック）

○事務局より事前配布資料及び資料1に基づき、環境ブックの修正経過を説明した。

- ・環境ブックは、環境報告書として位置づけられている。
- ・環境ブックの発行スケジュールは、資料1の通り。
- ・環境ブックの構成は、昨年議論いただきリニューアルしており、今回は同様の構成としている。第4部の市民・事業者の取組の中で、ロードサポーターや公園美化協力員の取り組みが新たに記載されている。
- ・特集のテーマについては、一昨年の審議会で、生物多様性、温暖化対策、フードロスの3つのテーマが出された。昨年はフードロスを集集しており、今回は、生物多様性を取り上げた。

○委員意見

1) 特集の内容について

- ・生物多様性とは何か、わからない実態がある。
- ・特集記事の中にコラムが設けられている。
- ・コラム1では、リオデジャネイロ会議についてNGOの視点から記載する。生物多様性は、生命、生き方、教育に関わる問題であり、行政が記載する文書では、NGO側の視点から描くのは困難であると思う。
- ・コラム2では、生態系とは何かがわかりにくいので、地域社会で行われている具体的な活動を記載し説明する。具体的には、摩周湖そばの標茶町でのシマフクロウの保全活動を取り上げる。漁業、農業、教育に結びつく問題であり、環境を文化としてとらえたい。
- ・外来種は生物多様性で保護すべきものなのか？

⇒地形や気候を生かし、人間の働きかけで風土が出来上がった。風土の中の生物がいられなくなることから、外来種は排除すべきものとなる。

- ・風土も変化しており、正常な状態がわからなくなっている。特に気温は暖かくなり、紅葉の時期などもピークが変化している。文化としての環境という考えにつながる。

2) 本編について

- ・内容は、昨年の意見が反映されており良い。
- ・報告書としては良いが、ボリュームが多く、子どもにとっては、環境ブックを使うことは難しいと思う。
- ・エコ活動を拡大していく、アピールしていくということでは、簡易版や副読本として子ども向けの環境ブックが欲しいと思う。
- ・小中学生に見やすいように作る。エコチャレンジや立川いきものデータベースなど、環境配慮行動につなげられるような工夫をしてほしい。
- ・特集ページ以外でも、コラムやわかりやすい解説ができるとう良い。
- ・見てもらうことが大事である。小さい文字は読まないのので、関心を持つような見出しがあると良い。
- ・電線の地中化や空き家の問題など、まちなみの美化という視点から考えることができる。
- ・環境ブックにより、立川の良い所を知ることができる。立川の良さを知るハンドブックとして、立川をPRすることに焦点を当ててもいいのではないか。

2 閉会

以上